

[サブタイトル]様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大原簿記法律&美容製菓専門学校和歌山校
設置者名	学校法人 大原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務 専門課程	税理士・ 会計士学科	夜・ 通信	240 時間	160 時間	
	ビジネス医療保 育学科	夜・ 通信	600 時間	160 時間	
	総合ビジネス学 科1年制昼間部	夜・ 通信	240 時間	80 時間	
	税理士・会計士学 科1年制昼間部	夜・ 通信	240 時間	80 時間	
	総合ビジネス学 科1年制夜間部	夜・ 通信	240 時間	80 時間	
	税理士・会計士学 科1年制夜間部	夜・ 通信	270 時間	80 時間	
	税理士・会計士学 科1年5ヶ月制夜 間部	夜・ 通信	120 時間	80 時間	
	国際ビジネス学 科	夜・ 通信	90 時間	80 時間	
文化教養 専門課程	法律行政学科	夜・ 通信	255 時間	160 時間	
	法律事務学科 1 年制昼間部	夜・ 通信	0 時間	80 時間	※
	法律事務学科 1 年制夜間部	夜・ 通信	0 時間	80 時間	※
	法律実務学科 1 年制夜間部	夜・ 通信	0 時間	80 時間	※
衛生関係 専門課程	美容学科	夜・ 通信	1380 時間	160 時間	

	製菓学科 2 年制	夜・通信	1230 時間	160 時間	
	製菓学科 1 年制	夜・通信	570 時間	80 時間	
(備考) 法律事務学科 (昼間部・夜間部) ・法律実務学科は実務経験のある教員につき、省令で定める時間数には達していない。理由は次頁参照。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 <https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名	法律事務学科 (1 年制昼間部・1 年制夜間部) ・法律実務学科
(困難である理由)	<p>法律事務学科 (昼間部・夜間部) ・法律実務学科ともに、入学生の大多数が官公庁への就職を希望しており、学校として公務員としての人材に相応しい社会人基礎教育、公務員採用試験対策に鑑みた授業科目を設定している。学生は多岐にわたる公務員職種の中より就職先を選定しており、特定の職種を想定していない。</p> <p>また、専門学校卒業見込者を対象とする公務員試験の出題状況に鑑み、学問分野としては一般教養科目 (国語・数学・理科・社会など) を中心とする教育を提供している。以上の理由に基づき、学問分野の特性等により実務経験のある教員等による授業科目を設置することは困難である。</p>

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大原簿記法律&美容製菓専門学校和歌山校
設置者名	学校法人 大原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 URL: <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer_list.pdf">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer_list.pdf</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	司法書士事務所 所長	2023.4.1～ 2027.3.31	法人運営における 法務的な検証、管理
非常勤	Web デザイン・システム 開発・印刷関連企業 代表	2023.4.1～ 2027.3.31	学生募集、教材開発 への助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大原簿記法律&美容製菓専門学校和歌山校
設置者名	学校法人 大原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。																						
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。 毎年、上記の手続きを経て、授業計画(シラバス)を改善検討し、3月に公表する																						
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/">https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/</a>																					
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。																						
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)																						
1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。																						
2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>判定</th> <th>評価点</th> <th>成績評価</th> <th>成績証明書表記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>100点～90点</td> <td>秀</td> <td>秀</td> </tr> <tr> <td>89点～80点</td> <td>優</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>79点～70点</td> <td>良</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>69点～60点</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>59点以下</td> <td>不可</td> <td>非表示</td> </tr> </tbody> </table>	判定	評価点	成績評価	成績証明書表記	合格	100点～90点	秀	秀	89点～80点	優	優	79点～70点	良	良	69点～60点	可	可	不合格	59点以下	不可	非表示
判定	評価点	成績評価	成績証明書表記																			
合格	100点～90点	秀	秀																			
	89点～80点	優	優																			
	79点～70点	良	良																			
	69点～60点	可	可																			
不合格	59点以下	不可	非表示																			
※当該授業科目ごとに定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。																						

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

1. 成績評価における客観的な指数として、GPA (Grade Point Average) を用いる。
2. 科目ごとの成績評価に対する GP (Grade Point) は次のとおり。

成績評価	GP	評価点	備考
秀	4	100点～90点	
優	3	89点～80点	
良	2	79点～70点	
可	1	69点～60点	
不可	0	59点以下	
認定	—	—	対象外

3. GPA 算出方法

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目の単位数} \times \text{当該科目で付与された GP}) \text{の合計}}{\text{履修科目の単位数の合計}}$$

※小数点以下第2位四捨五入

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

ホームページにて公表  
<https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

1. 卒業認定は、学科ごとに定める修業年限以上在学し、学科ごとに定める授業時間数以上履修かつその該当する所定の授業科目を及び単位数を習得していること

学 科	修業年限	授業時間数	単位数
税理士・会計士学科	2年	1,700時間以上	62単位以上
ビジネス医療保育学科	2年	1,700時間以上	62単位以上
法律行政学科	2年	1,700時間以上	62単位以上
美容学科	2年	2,010時間以上	67位以上
製菓学科	2年	1,700時間以上	62単位以上
税理士・会計士学科1年5ヶ月	1年5ヶ月	1,000時間以上	34単位以上
総合ビジネス学科昼間部	1年	800時間以上	30単位以上
税理士・会計士学科昼間部	1年	800時間以上	30単位以上
総合ビジネス学科夜間部	1年	800時間以上	30単位以上
税理士・会計士学科夜間部	1年	800時間以上	30単位以上
法律事務学科昼間部	1年	800時間以上	30単位以上
法律事務学科夜間部	1年	800時間以上	30単位以上
法律実務学科	1年	800時間以上	30単位以上
製菓学科	1年	800時間以上	30単位以上
国際ビジネス学科	1年	800時間以上	30単位以上

2. 卒業認定は、卒業判定委員会において、上記の基準に基づいて判定し、審査に合格した者について校長が行う。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

ホームページにて公表  
<https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大原簿記法律&美容製菓専門学校和歌山校
設置者名	学校法人 大原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページで公表 <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	税理士・会計士学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間／62 単位	7695 単位時間	5175 単位時間	60 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			12930 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		12人	0人	2人	0人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要）			
年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。			
毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。			
成績評価の基準・方法			
（概要）			
1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。			
2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。			
判定	評価点	成績評価	成績証明書表記
合格	100点～90点	秀	秀
	89点～80点	優	優
	79点～70点	良	良

	69点～60点	可	可
不合格	59点以下	不可	非表示

※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。

#### 卒業・進級の認定基準

(概要)

1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。
2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。

#### 学修支援等

(概要)

入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。

また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。

#### 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	6人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)

(主な就職、業界等)

全員進学

(就職指導内容)

全員進学のため就職指導なし

(主な学修成果（資格・検定等）)

税理士試験（簿記論・財務諸表論・消費税法・相続税法・法人税法）

日商簿記検定1級 全経簿記上級

(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	0人	0%

(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取組)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	ビジネス医療保育学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間／62 単位	5375 単位時間	5350 単位時間	3780 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			14505 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		54人	6人	1人	2人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																					
<p>（概要）</p> <p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>																					
成績評価の基準・方法																					
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定</th> <th>評価点</th> <th>成績評価</th> <th>成績証明書表記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>100点～90点</td> <td>秀</td> <td>秀</td> </tr> <tr> <td>89点～80点</td> <td>優</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>79点～70点</td> <td>良</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>69点～60点</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>59点以下</td> <td>不可</td> <td>非表示</td> </tr> </tbody> </table> <p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>	判定	評価点	成績評価	成績証明書表記	合格	100点～90点	秀	秀	89点～80点	優	優	79点～70点	良	良	69点～60点	可	可	不合格	59点以下	不可	非表示
判定	評価点	成績評価	成績証明書表記																		
合格	100点～90点	秀	秀																		
	89点～80点	優	優																		
	79点～70点	良	良																		
	69点～60点	可	可																		
不合格	59点以下	不可	非表示																		
卒業・進級の認定基準																					
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>																					
学修支援等																					



<p>(概要)</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>
---

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23人 (100%)	0人 (0%)	23人 (100%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>三友工業(株)、(有)すまいるズ、(株)ミューゼプラチナム、阪和流通センター大阪(株)  (株)大和生研（117グループ）、阪急阪神不動産(株)、(株)ダイキョウ  公立学校共済組合和歌山宿泊所 ホテルアバローム紀の国、栄雅工業  Lupine(株)、(株)ジョヴィ、中央グリーン(株)、(株)日本トランスネット  (株)オルト・ファクトリーサービス、(株)ロイヤルホテル、村中医療器(株)、(株)カネカ  (株)更紗ホテルズ、リゾートトラスト(株)大阪支社、デュプロ精工(株)  南海マネジメントサービス(株)、(株)白浜館（ホテルシーモア）、和歌山ターミナルビル(株)</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>業界研究 ESの記入アドバイス 自己PR作成 模擬面接練習 自己分析  履歴書の書き方</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>日本商工会議所主催簿記検定試験、全国経理教育協会主催簿記検定上級、日本商工会議所主催リテールマーケティング検定試験、ファイナンシャル・プランニング技能検定試験</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	1人	5.0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>帰国のため</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>中退防止の取組として、担任による定期面談ならびに学生のシグナルを感じ取った際に実施する担任・管理職による随時面談を実施している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	総合ビジネス学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間 / 30 単位	6660 単位時間	4650 単位時間	1680 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			12990 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		0人	0人	0人	2人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（概要）</p> <p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p>			
	判定	評価点	成績評価
合格		100点～90点	秀
		89点～80点	優
		79点～70点	良
		69点～60点	可
不合格		59点以下	不可
<p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>			
学修支援等			
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	6人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 全員進学			
(就職指導内容) 全員進学のため就職指導なし			
(主な学修成果（資格・検定等）) 税理士試験（簿記論・財務諸表論・消費税法・相続税法・法人税法） 日商簿記検定1級 全経簿記上級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	3人	33.3%
(中途退学の主な理由) 学習継続修了		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談ならびに学生のシグナルを感じ取った際に実施する担任・管理職による随時面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	税理士・会計士学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間 / 30 単位	7548 単位時間	5950 単位時間	60 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			13558 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		5人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（概要）</p> <p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p>			
	判定	評価点	成績評価
合格		100点～90点	秀
		89点～80点	優
		79点～70点	良
		69点～60点	可
不合格		59点以下	不可
<p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>			
学修支援等			
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・</p>			

保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	2人 (40.0%)	3人 (60.0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 和歌山市役所、税理士法人日高総合経営センター、税理士法人松岡会計事務所			
(就職指導内容) 会計事務所・税理士法人研究 ESの記入アドバイス 自己PR作成 模擬面接練習 自己分析 履歴書の書き方			
(主な学修成果（資格・検定等）) 税理士試験（簿記論・財務諸表論・消費税法・相続税法・法人税法） 日商簿記検定1級 全経簿記上級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	総合ビジネス学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜	800 単位時間 / 30 単位	6630 単位時間	4620 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			11250 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		0人	0人	0人	2人	2人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。

毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。
2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。

判定	評価点	成績評価	成績証明書表記
合格	100点～90点	秀	秀
	89点～80点	優	優
	79点～70点	良	良
	69点～60点	可	可
不合格	59点以下	不可	非表示

※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。
2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。

### 学修支援等

#### （概要）

入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。

また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	3人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 全員進学			
(就職指導内容) 全員進学のため就職指導なし			
(主な学修成果（資格・検定等）) 税理士試験（簿記論・財務諸表論・消費税法・相続税法・法人税法） 日商簿記検定1級 全経簿記上級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	2人	66.7%
(中途退学の主な理由) 学習継続修了		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談ならびに学生のシグナルを感じ取った際に実施する担任・管理職による随時面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	税理士・会計士学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜	800 単位時間 / 30 単位	6630	4620	0	0	0
			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			11250 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		3人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要)			
<p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画(シラバス)を改善検討し、3月に公表する。</p>			
成績評価の基準・方法			
(概要)			
<p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p>			
	判定	評価点	成績評価
	合格	100点～90点	秀
		89点～80点	優
		79点～70点	良
		69点～60点	可
	不合格	59点以下	不可
<p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>			
卒業・進級の認定基準			
(概要)			
<p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>			
学修支援等			
(概要)			
<p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>			



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	3人 ( 100%)	0人 ( %)	0人 ( %)
(主な就職、業界等) 全員進学			
(就職指導内容) 全員進学のため就職指導なし			
(主な学修成果（資格・検定等）) 税理士試験（簿記論・財務諸表論・消費税法・相続税法・法人税法） 日商簿記検定1級 全経簿記上級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	税理士・会計士学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年 5カ 月	夜	1,000 単位時間 / 34 単位	1545	1395	0	0	0
			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2940 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		0 人	0 人	1 人	1 人	2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>概要)</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3 月に公表する。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>(概要)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p>			
	判定	評価点	成績評価
合格		100 点～90 点	秀
		89 点～80 点	優
		79 点～70 点	良
		69 点～60 点	可
不合格		59 点以下	不可
<p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>(概要)</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>			
学修支援等			
<p>(概要)</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	法律行政学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間／62 単位	2076 単位時間	2497 単位時間	2385 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			6958 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		81人	0人	1人	3人	4人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（概要）</p> <p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p>			
	判定	評価点	成績評価
合格		100点～90点	秀
		89点～80点	優
		79点～70点	良
		69点～60点	可
不合格		59点以下	不可
<p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>			
学修支援等			
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
37人 (100%)	2人 ( 5.4%)	31人 ( 83.8%)	4人 ( 10.8%)
(主な就職、業界等) 国家公務員（官公庁職員・裁判所職員・海上保安学校など） 地方公務員（県庁職員・市役所職員・警察官・消防官など）			
(就職指導内容) 官公庁担当者による学内採用説明会、担任による自己分析指導・面接指導など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 一般教養力検定、漢字検定など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
90人	6人	6.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的困難		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談ならびに学生のシグナルを感じ取った際に実施する担任・管理職による随時面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	法律事務学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間 / 30 単位	515 単位時間	1102 単位時間	188 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1805 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		19人	0人	1人	2人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（概要）</p> <p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p>			
	判定	評価点	成績評価
合格		100点～90点	秀
		89点～80点	優
		79点～70点	良
		69点～60点	可
不合格		59点以下	不可
<p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>			
学修支援等			
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	2人 ( 14.3%)	12人 ( 85.7%)	1人 ( 7.0%)
(主な就職、業界等) 国家公務員（官公庁職員・裁判所職員・海上保安学校など） 地方公務員（県庁職員・市役所職員・警察官・消防官など）			
(就職指導内容) 官公庁担当者による学内採用説明会、担任による自己分析指導・面接指導など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 漢字検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	14人	50.0%
(中途退学の主な理由) 公務員10月採用内定、公務員試験早期内定、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談ならびに学生のシグナルを感じ取った際に実施する担任・管理職による随時面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	法律事務学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜	800 単位時間 / 30 単位	191 単位時間	1240 単位時間	150 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1581 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		0人	0人	0人	2人	2人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。

毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。
2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。

判定	評価点	成績評価	成績証明書表記
合格	100点～90点	秀	秀
	89点～80点	優	優
	79点～70点	良	良
	69点～60点	可	可
不合格	59点以下	不可	非表示

※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。
2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。

### 学修支援等

#### （概要）

入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。

また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		専門課程	法律実務学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	夜	800 単位時間 / 30 単位	191 単位時間	1240 単位時間	150 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1581 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		0人	0人	0人	1人	1人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（概要）</p> <p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p>			
	判定	評価点	成績評価
合格		100点～90点	秀
		89点～80点	優
		79点～70点	良
		69点～60点	可
不合格		59点以下	不可
<p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>			
学修支援等			
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
衛生関係	専門課程	美容学科	○	-			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,010 単位時間 ／62 単位	980 単位時間	515 単位時間	515 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2,010 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	0人	0人	0人	3人	3人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>

成績評価の基準・方法			
(概要)			
1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。			
2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。			
判定	評価点	成績評価	成績証明書表記
合格	100点～90点	秀	秀
	89点～80点	優	優
	79点～70点	良	良
	69点～60点	可	可
不合格	59点以下	不可	非表示
※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。			
卒業・進級の認定基準			
(概要)			
1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。			
2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。			
学修支援等			
(概要)			
入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。			
また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生関係		専門課程	製菓学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間 / 62 単位	810 単位時間	0 単位時間	1110 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1920 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
64人		27人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要)			
年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。			
毎年、上記の手続きを経て、授業計画 (シラバス) を改善検討し、3月に公表する。			
成績評価の基準・方法			
(概要)			
1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。			
2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。			
判定	評価点	成績評価	成績証明書表記
合格	100点～90点	秀	秀
	89点～80点	優	優
	79点～70点	良	良
	69点～60点	可	可
不合格	59点以下	不可	非表示
※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。			
卒業・進級の認定基準			

<p>(概要)</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>
---

学修支援等

<p>(概要)</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>
---

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	6人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等)  
 (株)ロイヤルホテル(リーガロイヤルホテル)、(株)近鉄・都ホテルズ 大阪マリOTT都ホテル、(株)カワ、(株)たにくち

(就職指導内容)  
 業界研究 ESの記入アドバイス 自己PR作成 模擬面接練習 自己分析  
 履歴書の書き方

(主な学修成果(資格・検定等))  
 製菓衛生師

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	1人	4.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談ならびに学生のシグナルを感じ取った際に実施する担任・管理職による随時面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生関係		専門課程	製菓学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間 / 30 単位	450 単位時間	0 単位時間	480 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			930 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
32人		0人	0人	1人	1人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（概要）</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p>			
	判定	評価点	成績評価
	合格	100点～90点	秀
		89点～80点	優
		79点～70点	良
		69点～60点	可
	不合格	59点以下	不可
<p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>			
学修支援等			
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (%)	人 (%)	人 (%)	1人 (100%)
(主な就職、業界等) 就職希望無し			
(就職指導内容) 就職希望無し			
(主な学修成果（資格・検定等）) 製菓衛生師試験受験資格取得			
(備考)（任意記載事項） 入学後2年制から1年制に学科変更したため就職希望無し、年度当初の在籍もなし。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談ならびに学生のシグナルを感じ取った際に実施する担任・管理職による随時面談を実施している。		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	国際ビジネス学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間 / 30 単位	420 単位時間	410 単位時間	120 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			950 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		0人	0人	0人	1人	1人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（概要）</p> <p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により行う。</p> <p>2. 学業成績の判定および成績証明書の表記は下記のとおりとする。</p>			
	判定	評価点	成績評価
	合格	100点～90点	秀
		89点～80点	優
		79点～70点	良
		69点～60点	可
	不合格	59点以下	不可
<p>※当該授業担当者の定める出席日数を満たしていない場合や授業内に行う効果測定、課題等の提出が行われていない場合は、「不可」となることがある。</p>			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <p>1. 進級の認定は、各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮のうえ、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定は、修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を習得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。</p>			
学修支援等			
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施、安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心にきめ細かに指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者等にも定期報告し、学生・保護者等・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	人 ( %)	0人 ( %)	0人 ( %)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
税理士・会計士学科	200,000 円	620,000 円	380,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
ビジネス医療保育学科	200,000 円	640,000 円	380,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
総合ビジネス学科 1 年制昼間部	200,000 円	620,000 円	380,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
税理士・会計士学科 1 年制昼間部	200,000 円	620,000 円	380,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
総合ビジネス学科 1 年制夜間部	100,000 円	400,000 円	100,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
税理士・会計士学科 1 年制夜間部	100,000 円	400,000 円	100,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
税理士・会計士学科 1 年 5 ヶ月制夜間部	100,000 円	400,000 円	100,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
国際ビジネス学科	200,000 円	620,000 円	380,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
法律行政学科	200,000 円	620,000 円	380,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
法律事務学科 1 年制昼間部	200,000 円	620,000 円	380,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
法律事務学科 1 年制夜間部	100,000 円	400,000 円	100,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
法律実務学科 1 年制夜間部	100,000 円	400,000 円	100,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
美容学科	200,000 円	640,000 円	380,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
製菓学科 2 年制	200,000 円	640,000 円	580,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
製菓学科 1 年制	200,000 円	640,000 円	580,000 円	その他：教材費・維持費・実習演習費
修学支援 (任意記載事項)				
学費支援制度：奨学生試験の結果や取得している資格に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除 試験による特別奨学生 取得資格による特別奨学生 クラブ特別奨学生				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
当校の教育理念に基づき実践的な教育ができてきているか、教育を実現するために必要な環境が整っているかにつき、学校関係者評価委員会を設置して評価項目から評価する。今年度は教育環境、社会貢献・地域貢献につき委員より評価いただき、結果をホームページで公表する。課題の残る評価結果については、管理職主導で改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
青山商事株式会社 洋服の青山 和歌山国体道路中島店 店長	2023 年 4 月 1～ 2025 年 3 月 31 日	企業等委員
ホテルアバローム紀の国 フロントチームリーダー	2023 年 4 月 1～ 2025 年 3 月 31 日	企業等委員
ホテルアバローム紀の国 営業部長	2023 年 4 月 1～ 2025 年 3 月 31 日	企業等委員

株式会社 アスクビューティー	2023年4月1～ 2025年3月31日	企業等委員
税理士法人くらしあす 代表税理士	2023年4月1～ 2025年3月31日	企業等委員
杉本公認会計士事務所 公認会計士	2023年4月1～ 2025年3月31日	企業等委員
菓子乃輪 代表取締役	2023年4月1～ 2025年3月31日	企業等委員
株式会社 仁インターナショナル 代表取締役	2023年4月1～ 2025年3月31日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.o-hara.ac.jp/osaka/senmon/school/wakayama/">https://www.o-hara.ac.jp/osaka/senmon/school/wakayama/</a>
--